

# インドネシアの母親の養育態度、育児／仕事への意識が 子どものレジリエンスとハピネス(QOL)に及ぼす影響

ソフィア・ハルタティ

シリ・インダ・プジラストウティ

ジャカルタ国立大学

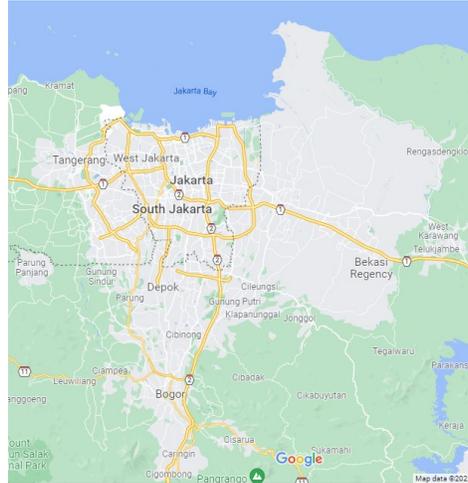
ファスリ・ジャラル

ヤルシ大学

2022 年 インドネシア ジャカルタ

## はじめに

### 1. インドネシアの地理的特性



ジャボデタベック(ジャカルタ首都圏)は、インドネシアの人口が密集する大都市の1つである。インドネシア中央統計庁(BPS)の2018年統計によると、ジャカルタ首都特別州の人口は2,795万人、その面積は6,400.71平方キロメートルである。

### 2. インドネシアの教育

近年、インドネシアの人口ピラミッドには重要な変化が起こっている。ベビーブーム世代から現在に至るまで、幼児(0~6歳児)の比率は比較的低かった。現在、インドネシアには3,083万人の幼児が住んでおり、男女の比率は女子100人当たり男子103.44人と、男子の数がやや上回っている。また、インドネシアの人口の11.35%はアルファ世代(21世紀に生まれた世代)である。子どもの全人口のうち55.94%がジャカルタに住み、44.06%が地方に住んでおり、都市部に住む子どもの方が多い(情報統計年鑑, 2020)。

さらに、ジャカルタ首都特別州に住む乳幼児の人口を年齢別にみると、乳児(1歳未満)が13.56%、幼児(1~4歳)が57.16%、未就学児(5~6歳)が29.28%という構成である。インド

ネシアの「2020 年情報統計年鑑」によると、0～4 歳児の人口は男子が 341,196 人、女子が 319,822 人となっている。なお、ジャカルタ首都特別州に住む 5～9 歳児の人口は、男子が 461,099 人、女子が 432,664 人と報告されている。

総就学率(GER)はあらゆる教育段階において学齢児童の人口に対する就学児童の割合を表す。総務省統計局の 2020 年調査によると、ジャカルタ首都特別州で最も総就学率が高いのは幼児教育(ECCE、インドネシア語では PAUD)で、2017 年には 60.58%であったが、それ以降は減少傾向をたどり、2019 年には 20.35%まで低下した。初等教育の総就学率は過去 5 年間、約 1～2%の減少があった程度で、ほぼ横ばいとなっている。

### 3. インドネシアの社会経済的状況

ジニ係数は統計的手法によって社会における所得分配の不公平さを測る指標である。ジニ係数の値は 0 から 1 の間をとり、1 に近づくほど所得格差が大きく、0 に近づくほど所得格差が小さい。2021 年 3 月現在、インドネシアの所得格差を表すジニ係数は 0.384 であった。2020 年 9 月時点のジニ係数 0.385 に比べて低く、2020 年 3 月時点のジニ係数 0.381 よりは高い水準となっている(BPS、2021c)。

地域別にみると、都市部のジニ係数は 2021 年 3 月現在で 0.401 と、2020 年 9 月時点の 0.399 から上昇している。一方、地方のジニ係数は 2021 年 3 月現在で 0.315 と、2020 年 9 月時点の 0.319 から低下している。また、ジャカルタ首都特別州のジニ係数は 2015 年 3 月から 2019 年 3 月までの間、全国平均値を一貫して上回っていた(BPS、2021c)。

2015 年 3 月から 2019 年 3 月まで、ジャカルタ首都特別州のジニ係数は概ね低下傾向にあるが、2017 年 3 月に 0.016 ポイント、2019 年 3 月に 0.004 ポイントの上昇が見られた。最も低いのは 2018 年 9 月の 0.39 であった。一方、インドネシア全体のジニ係数は一貫して低下傾向にあり、最も低かったのが 2019 年 3 月の 0.382 であった(BPS、2021c)。

#### 4. インドネシアの新型コロナ事情(調査時)

2020 年 3 月 2 日、インドネシア共和国の大統領が国内初の新型コロナウイルス感染者(2 名)を発表し、インドネシアは初めて 69 カ国の感染国リストに含められることになった(Fadli, 2021)。ジャカルタ首都特別州政府は 2020 年 4 月 4 日に「大規模社会制限(PSBB)」の実施を発表した。その内容は、ソーシャル・ディスタンスの確保、在宅勤務の義務、学校の休校などである(2019 年に発現した新型コロナウイルスの感染封じ込め政策としての政令 2020 年第 21 号「大規模社会制限」)。

UNICEF の 2021 年報告書によると、インドネシアの新型コロナ感染者数は東南アジアで最も多かった。確認された感染者数のうち、18 歳未満の子どもの感染は 13%であり、死亡件数のうち、子どもは 1%である。国内の感染者数は 2021 年 7~8 月に急増した後、9 月初旬からは公共衛生や疫学上の様々な要因によって減少傾向に転じた。この傾向は 10 月から 12 月まで着実に続いたものの、12 月半ばにオミクロン変異株が国内で発見されたことや、年末の休暇シーズンに移動する人々が急増したことが原因で、感染者数がやや増加することになった。

パンデミックによって影響を受けたものの一つは公共の場における人々の移動である。新型コロナウイルスは空気感染によって拡大すると考えられていたため、公共の場で密集することを回避する必要があった。大規模社会制限(PSBB)、身体的距離の確保、在宅勤務の義務、帰省の禁止などの政策は、コミュニティ内の人々の移動に変化をもたらした(BPS, 2021d)。子どもは全員家庭で勉強し、教師とのオンライン授業(Zoom Meeting)を毎週または隔週1回受けることになった。ただし、親たちは WhatsApp アプリを使用して、ほぼ毎日教師と連絡をとりあっていた。教師は子どもたちに宿題を与え、親たちは家庭で子どもの学習を指導、監督し、進捗を記録する責任を負うことになり、WhatsApp アプリやビデオ通話を用いて学習状況を教師に報告した。一般に、3~6 歳児の社会情動的コンピテンス(自己抑制、感情表現、社会的交流など)はコロナ禍によって大幅に低下したと言われている。なぜならば、子どもたちは保育園や幼稚園で友達と自由に交流して遊ぶことができないため、ストレスやネガティブな感情が蓄積し、学習意欲が減退したからである(Pujiastuti et al., 2022)。

さらに、次に挙げる要因によって、子どものニーズが適切に満たされない可能性もあった。すなわち、家庭環境の条件(例:限られたスペースや設備)、親がインターネットを使いこなせないこと、家庭内で複数の子どもたちが限られた台数のデスクトップPC、ノートパソコン、スマートフォンを取り合っていること、インターネット接続のデータ使用量に制限があること、親が子どもの学習内容をどこまで理解しているか、などである(Putra et al., 2020)。そのため、政府は対応措置を講じ、マスクの着用、身体的距離の確保、手洗いなどといった衛生管理実施要項を国民に助言した。また、食料品の支給、保健施設の提供、インターネット使用の補助、失業中の親への融資など、コミュニティへの支援も行った(Djalante et al., 2020)。

## 5. 本研究の問い (リサーチ・クエスチョン)

本研究の問いと仮説は次の通りである:母親の養育態度や育児/仕事への意識と、子どものレジリエンスやハピネス(QOL)の間には何らかの相関があるのか? その回答として、子どものハピネスとレジリエンスは親の態度やしつけによって左右されるため、母親の養育態度や育児/仕事への意識と、子どものレジリエンスやハピネス(QOL)の間には相関関係があると推定した。

### 調査方法

#### 1. サンプル

本調査は、ジャカルタ首都特別州の2地区および西ジャワ州(ブカシ、ボゴール、デポック、タンゲラン)を対象として、2021年9月に実施した。サンプルは単純無作為抽出法を用いて選び、回答者は答えたくない質問には無理に答えなくてもよいものとした。サンプルは5歳児または7歳児の親たちである。

表 1: 子どもの基礎情報

			5 歳児		7 歳児	
			416		335	
			n	%	n	%
q2_1	性別	1 男子	208	50.0	173	51.6
		2 女子	208	50.0	160	47.8
		無回答	0	0.0	2	0.6
q2_2	年齢 5 歳児	1 5 歳 0 カ月～2 カ月	74	17.8		
		2 5 歳 3 カ月～5 カ月	95	22.8		
		3 5 歳 6 カ月～8 カ月	92	22.1		
		4 5 歳 9 カ月～11 カ月	155	37.3		
		無回答	0	0.0		
q2_2	年齢 7 歳児	1 7 歳 0 カ月～2 カ月			30	9.0
		2 7 歳 3 カ月～5 カ月			58	17.3
		3 7 歳 6 カ月～8 カ月			95	28.4
		4 7 歳 9 カ月～11 カ月			152	45.4
		無回答			0	0.0
q2_3	世帯当たりの 子どもの数 (調査対象児 も含む)	1 1 人	108	26.0	57	17.0
		2 2 人	182	43.8	132	39.4
		3 3 人	96	23.1	98	29.3
		4 4 人	25	6.0	34	10.1
		5 5 人以上	5	1.2	14	4.2
		無回答	0	0.0	0	0.0
q2_4	出生順位	1 1 番目	204	49.0	149	44.5
		2 2 番目	138	33.2	96	28.7
		3 3 番目	56	13.5	65	19.4
		4 4 番目	14	3.4	17	5.1
		5 5 番目以降	4	1.0	8	2.4
		無回答	0	0.0	0	0.0

本調査では、「Google Forms」を使用し、5 歳児の母親 416 人と 7 歳児の母親 335 人に対してアンケート調査を行った。5 歳児の男女比率はそれぞれ 50% で、7 歳児の男女比率は男子が 51.6%、女子が 47.8% であった。調査対象児童の月齢別で見ると、5 歳児で最も多いのは 5 歳 9～11 カ月 (155 人、37.3%)、7 歳児で最も多いのは 7 歳 9～11 カ月 (152 人、45.4%) であった。調査の回答によると、世帯当たりの子どもの人数に関しては、「2 人」が最も多く、5 歳児の家庭のうち 43.8% (182 世帯)、7 歳児の家庭のうち 39.4% (132 世帯) を占めていた。また、出生順位に関しては、両方の年齢グループとも、第 1 子であると答えた母親が最も多かった。

表 2: 親の基礎情報

親のデモグラフィック情報			5 歳児		7 歳児		
			416		335		
			n	%	n	%	
q21_1	同居している人	1	回答者の子ども	353	84.9	242	72.2
		2	回答者の子どものきょうだい	249	59.9	237	70.7
		3	配偶者・パートナー	362	87.0	284	84.8
		4	回答者の父親	85	20.4	38	11.3
		5	回答者の母親	111	26.7	11	3.3
		6	配偶者・パートナーの父親	11	2.6	0	0
		7	配偶者・パートナーの母親	3	0.7	0	0
		8	親戚	7	1.7	0	0
		9	お手伝いさん	19	4.6	0	0
		10	その他	0	0	0	0
			無回答	26	6.3	0	0
q21_2	職業	1	常勤職(正社員・正職員) ※テレワーク含む	72	17.3	71	21.2
		2	パート・アルバイト	14	3.4	0	0
		3	契約社員・派遣社員	15	3.6	1	0.3
		4	内職	1	0.2	0	0
		5	雇用主	46	11.1	0	0
		6	自営業・家族従業	38	9.1	23	6.9
		7	農林漁業	1	0.2	0	0
		8	主婦・主夫(家事に専念・家事専従)	95	22.8	0	0
		9	学生	1	0.2	0	0
		10	無職	101	24.3	238	71
		11	その他	32	7.7	0	0
			無回答	0	0	2	0.6
q21_3	学歴	1	小学校	12	2.9	17	5.1
		2	中学校	28	6.7	43	12.8
		3	高等学校	66	15.9	111	33.1
		4	高等専門学校	78	18.8	85	25.4
		5	ディプロマ1-4級(全てのディプロマを修了した場合、学士号に相当する)	46	11.1	27	8.1
		6	四年制大学(学士)	159	38.2	46	13.7
		7	大学院(修士・博士)	24	5.8	6	1.8
		8	その他	3	0.7	0	0
			無回答	0	0.0	0	0
q21_6	世帯収入	1	0~27,700,000 ルピア未満	82	19.7	102	30.4
		2	27,700,000 ルピア以上 55,400,000 ルピア未満	53	12.7	36	10.7
		3	55,400,000 ルピア以上 83,100,000 ルピア未満	35	8.4	14	4.2
		4	83,100,000 ルピア以上 110,800,000 ルピア未満	18	4.3	9	2.7
		5	110,800,000 ルピア以上	48	11.5	14	4.2
		6	わからない・回答したくない	180	43.3	160	47.8
			無回答	0	0	0	0

調査の回答によると、両方の年齢グループとも、母親の祖父母と暮らしている子どもが多く、父親の祖父母と暮らしている子どもはほとんどいなかった。5 歳児の母親の多くは働いておらず、無職と答えたのが 101 人(24.3%)、専業主婦と答えたのが 95 人(22.8%)であった。7 歳児の母親に関しては、71%が無職と答えていた。母親の学歴に関しては、5歳児の母親グループの多くは、学士号の教育を受けており、7歳児の母親グループの多くは高校卒業が最終学歴であった。また、母親たちの5分の1が、0~27.700.000ルピア未満の世帯収入の暮らしに満足していると答え、50%超がコロナ禍によって世帯収入が減ったと答えている。

## 2. 尺度

母親たちには、オンラインアンケート(Google Form)で、子どものレジリエンス(CYRM-R)、QOL(KINDL)、養育態度、子育て意識、子育てで力を入れていること、現在の生活に対する満足度などについて回答してもらった。「CYRM-R」は子どものレジリエンスを測定する尺度で、5つのスコア(1=まったくあてはまらない、2=わずかにあてはまる、3=少しあてはまる、4=かなりあてはまる、5=とてもあてはまる)により算定する。一方、「KINDL」は子どものQOLを測定する尺度であり、やはり5つのスコア(1=ぜんぜんない、2=ほとんどない、3=ときどき、4=たいてい、5=いつも)により算定する。「親の養育態度」、「子育て意識」、「子育てで力を入れていること」に関しては、4つのスコア(1=とてもあてはまる、2=まああてはまる、3=あまりあてはまらない、4=まったくあてはまらない)で算定し、「現在の生活に対する満足度」のうち2つの質問に関しては、6つのスコア(1=とてもそう思う、2=ややそう思う、3=どちらともいえない、4=あまりそう思わない、5=まったくそう思わない、6=就業していない)で算定し、残りの3つの質問に関しては、5つのスコア(1=とてもそう思う、2=ややそう思う、3=どちらともいえない、4=あまりそう思わない、5=まったくそう思わない)で算定した。

5歳児と7歳児の母親(n=700-800)に対する74の質問項目は、有意性が0.05(0.07)より大きく、有効であることが確認された。信頼性を評価するクロンバックの $\alpha$ 係数は、0.38(子育て意識)から0.96(母親の生活満足度)のレンジで測定された。項目テスト相関の基準値(0.30)

を下回っている項目は削除した。また、「子育て意識」はクロンバックの  $\alpha$  係数の基準値 (0.60) を下回っていたため、次の段階の分析からは除外した。

## 結果

全ての分析には IBM SPSS 25.0 を使用し、分析を実施する前に入力エラーがないかをチェックした。全ての回答者(母親)は全項目に回答しており、欠損データは無かった。母親の養育態度と子育て意識に関する全てのデータは正規分布となっていた。

### 1. 母親の養育態度、育児／仕事への意識と、子どものレジリエンスやハピネスとの相関を示す記述データ

本調査では、各変数に信頼性テストを行い、次のような結果を得た。

表 3: 母親の養育態度、育児／仕事への意識と、子どものレジリエンス／ハピネスとの関連(平均、標準偏差、内部整合性)

子どもの年齢	5 歳児			7 歳児		
	平均	標準偏差	内部整合性	平均	標準偏差	内部整合性
子どものレジリエンス (CYRM-R)	4.27	.54	.89	4.31	.46	.87
子どもの QOL (KINDL)	4.24	.61	.65	4.23	.68	.48
親の養育態度	1.32	.36	.46	1.33	.37	.61
子育て意識	1.98	.84	.34	2.02	.87	.44
子育てで力を入れていること	1.47	.39	.75	1.47	.36	.57
母親の生活満足度	3.96	2.00	.95	4.92	1.73	.96

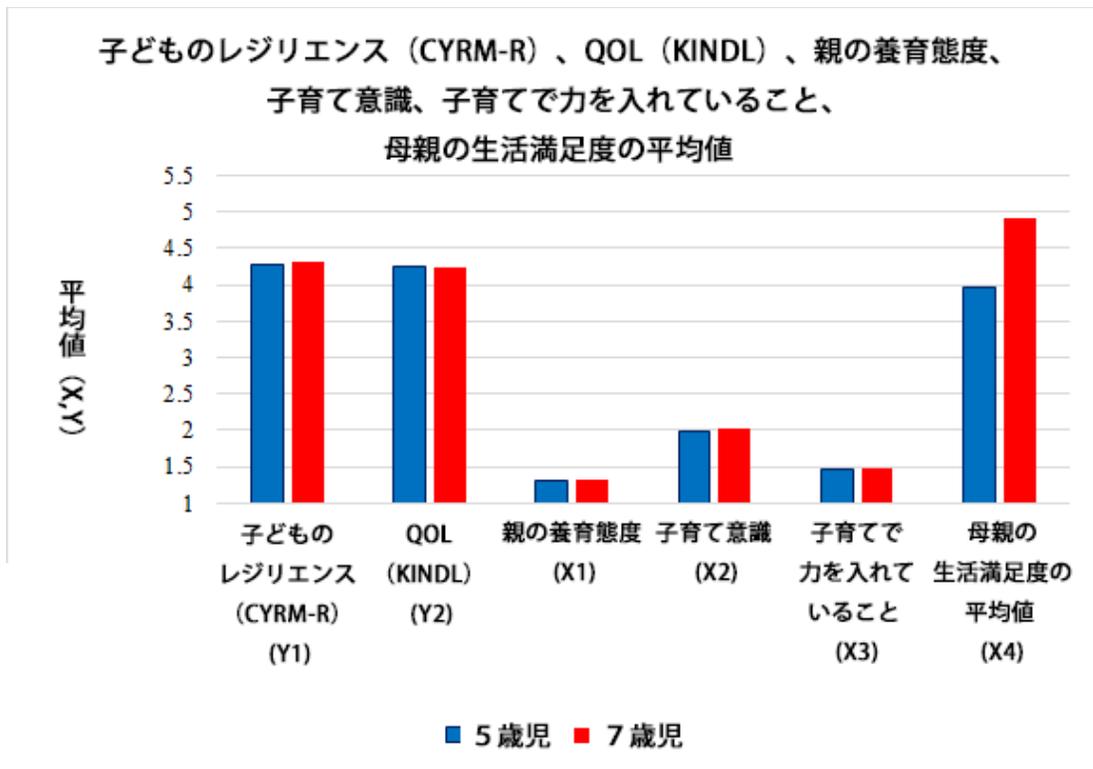


図 1: 子どものレジリエンス(CYRM-R)と QOL (KINDL)、親の養育態度、子育て意識、子育てで力を入れていること、母親の生活満足度の平均値

## 2. 母親の養育態度、子育て観、育児/仕事への意識と、子どものレジリエンス/ハピネスとの相関関係

従属変数は子どものレジリエンス(CYRM-R) (Y1)と QOL (KINDL) (Y2)、独立変数は親の養育態度 (X1)、子育て意識 (X2)、子育てで力を入れていること (X3)、母親の生活満足度 (X4)とした。分析にはピアソン積率相関係数(単相関と重相関)を用い、Y 変数に対する X 変数の関連性を測定した。

5 歳児に関しては、ピアソンの相関分析(両側検定)の結果、「子どものレジリエンス」(CYRM-R)と「子どもの QOL」(KINDL)との間には有意な相関が認められた( $r = .554, p < .001^{***}$ )。また、「応答的な親の養育態度」( $r = .345, p < .001^{***}$ )、「子育てで力を入れていること」( $r = .345, p < .001^{***}$ )、

ること(社会情動面)」( $r = .188, p < .001^{***}$ )も、「子どものレジリエンス」との間に有意な相関があった。一方、「母親の生活満足度」と「子どものレジリエンス」の間には弱い相関のみが確認された( $r=.062, p=.004$ )。5歳児の子どもに関する子育て意識は信頼性が低いいため、相関分析から除外した。

「子どもの QOL (KINDL)」に関しては、「応答的な親の養育態度」( $r = .296, p < .001^{***}$ )、「子育てで力を入れていること(社会情動面)」( $r = .216, p < .001^{***}$ )、「母親の生活満足度」( $r = .147, p < .001$ )が、「子どもの QOL (KINDL)」との間にそれぞれ相関が認められた。

データを見ると、5歳児の「レジリエンス(CYRM-R)」と「QOL (KINDL)」の間には有意な正の相関があることがわかる。従って、コロナ禍における子どもたちの QOL は彼らのレジリエンスによって左右されることが確認された。

さらに、標準回帰係数分析を行い、「応答的な親の養育態度」、「子育てで力を入れていること」、「母親の生活満足度」が総じて5歳児のレジリエンス(CYRM-R)の予測因子となるかを測定した。その結果、決定係数= .110、F 変化量= 88.96、有意確率=.000という値が得られた。従って、これら3つの X 変数は、子どものレジリエンス(CYRM-R)を予測する有意な変数であることがわかった。また、これら3つの X 変数が子どもの QOL (KINDL)を予測する有意な変数であることも確認された(決定係数=.087、F 変化量 = 67.82、有意確率=.000)。

一方、7歳児に関しては、「子どものレジリエンス」(CYRM-R)と「子どもの QOL」(KINDL)との間に有意な相関が認められた( $r = .483, p < .001$ )。また、「応答的な親の養育態度」( $r = .362, p < .001^{***}$ )、「子育てで力を入れていること(習い事や様々な体験をすることを重視)」( $r = .243, p < .001$ )、「母親の生活満足度」( $r = .372, p < .001$ )も、「子どものレジリエンス」との間にそれぞれ有意な相関があった。「子どもの QOL」(KINDL)に関しても、「応答的な親の養育態度」( $r = .362, p < .001$ )、「子育てで力を入れていること(習い事や様々な体験をすることを重視)」( $r = .253, p < .001$ )、「母親の生活満足度」( $r = .513, p < .001$ )は、それぞれ「子どもの QOL」との間に有意な相関があった。

また、「応答的な親の養育態度」、「子育てで力を入れていること」、「母親の生活満足度」と、7歳児のレジリエンス(CYRM-R)との間の標準回帰係数を算定した結果、決定係数= .249、F 変化量= 7.64、相関係数 <.001 という値が得られた。従って、これら 3 つの X 変数は、7 歳児のレジリエンス(CYRM-R)を予測する有意な予測因子であることがわかった。QOL についても、これら 3 つの X 変数は有意な予測因子であることが確認された(決定係数= .361、F 変化量= 12.96、相関係数 <.001)。

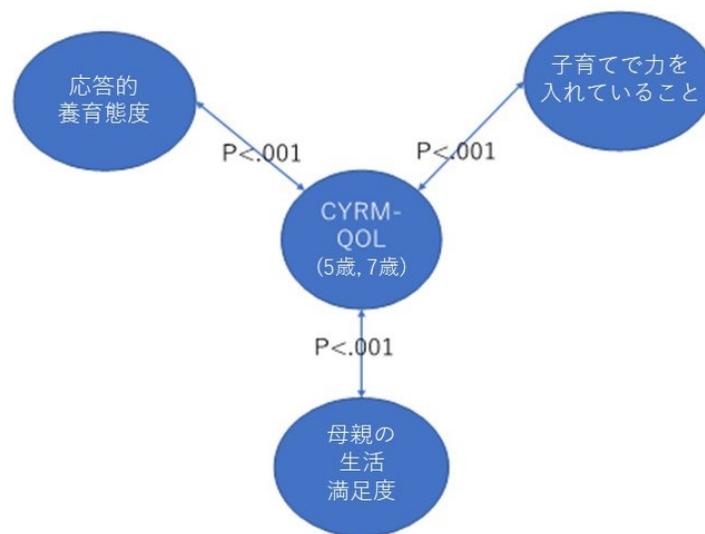


図 2: CYRM-R/QOL と「応答的な養育態度」、「子育てで力を入れていること」、「母親の生活満足度」との間の単相関と重相関

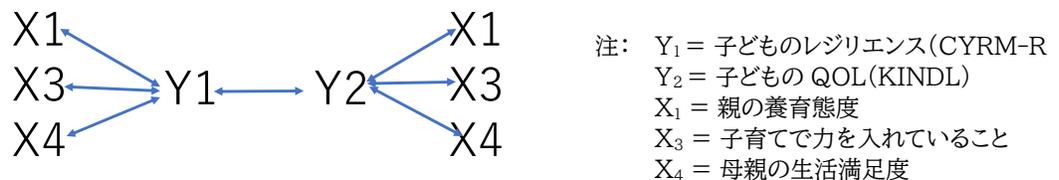


図 3: 単相関

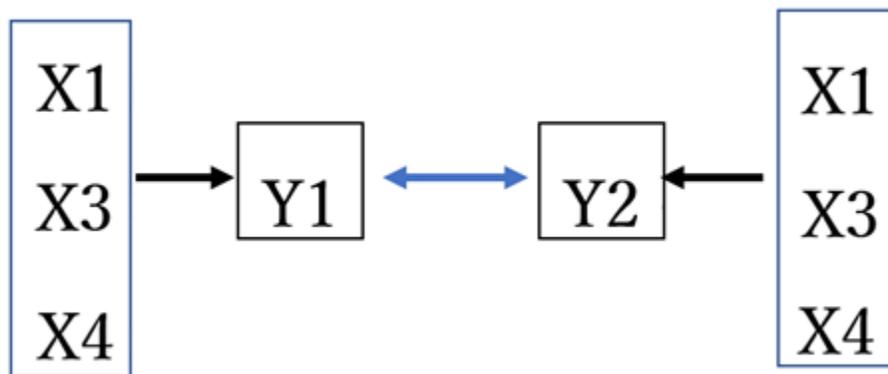


図 4: 重相関

### 考察

母親の養育態度、育児／仕事への意識(すなわち、「親の養育態度」、「子育てで力を入れていること」、「母親の生活満足度」)、子どものレジリエンス(CYRM-R)や QOL (KINDL) には違いがある。親は子どもが幼い頃から主たる養育に責任を負う。子どもの成長と発達の間における親の存在は、子どもが大人になった時の性質を形成する社会情動的スキルの発達に大きな影響を及ぼす。

子育ての間において親の存在は、幼児期の成長と発達にポジティブな影響を与える。インドネシア政府の社会経済調査(BPS、2021a)によると、インドネシアの幼児たちの約 89.03%は、生物学上の父母と一緒に暮らしている。しかし、幼児たちの 10.98%は、片親のみ(父親=1.27%、母親=7.04%)と暮らしているか、父母のどちらとも暮らしておらず(2.67%)、ほかの家族が育児を担っている状態にある(BPS、2021c)。

しかし、このことによって、親／保護者が幼児期の子どもと過ごす時間が減ることはいくつかの理由から避けられないようである。例えば、一緒に食事をする／食べ方を教える(89.16%)、テレビを見る(75.64%)、おしゃべりをする(66.85%)などである。ただし、大半の親／保護者と子どもとの間で親密な親子関係が存在する一方、3.73%の子どもは十分な養育を受けていないという深刻な事実もある。

る。特に、5歳未満の子どもに関しては、働いている母親の方が働いていない母親よりも、この比率が高くなる(働いている母親の場合 5.47%、働いていない母親の場合 2.31%)。働いている母親の子どもが十分な養育を受けられないというリスクを回避するためには、保育所(*Taman Penitipan Anak*、TPA)に預けるなど、代替策を講じる必要がある。インドネシア教育文化省のデータによると、7,252 小区域に対し、現在運営されている TPA の数は 2,864 と、施設の供給不足が示唆されている(BPS、2021c)。

本調査の結果、子どもの QOL とレジリエンスは育児環境と有意な相関関係があることがわかった。応答的な養育態度は子どもの QOL とレジリエンスの両方にポジティブな影響を及ぼす。母親の満足度や子育てで力を入れていることも、子どもの QOL とレジリエンスと相関関係がある。こうした結果から、親の養育態度を調整していくことは子どもの QOL とレジリエンスを促進する可能性があると結論付けられる。そのためには、親たちが政府やコミュニティのサポートを受けることが極めて重要であろう。

## 参考文献

- BPS. (2021a). *Statistik ketahanan sosial hasil susenas modul hansos 2020* [Social security statistics results of the 2020 hansos susenas module]. (「2020 年社会経済調査における社会保障統計結果」) Badan Pusat Statistik.
- BPS. (2021b). *Profil anak usia dini 2020* [Early childhood profile]. (「幼児期のプロフィール」) Badan Pusat Statistik.
- BPS. (2021c). *Indeks kesejahteraan rakyat 2021* [Society's welfare index 2021]. (「2021 年社会福祉指数」) Badan Pusat Statistik.
- BPS. (2021d). *Kajian big data sinyal pemulihan Indonesia dari pandemi Covid-19*. [Big data study signals Indonesia's recovery from the Covid-19 pandemic]. (「ビッグデータ調査はインドネシアのコロナ禍からの回復を示唆」) Badan Pusat Statistik.

- Djalante, R., Lassa, J., Setiamarga, D., Mahfud, C., Sudjatma, A., Indrawan, M., Surtiari, I. G. A. (2020). Review and analysis of current responses to COVID-19 in Indonesia: Period of January to March 2020. (「インドネシアにおける新型コロナ政策の現状および分析: 2020 年 1 月～3 月」) *Progress in Disaster Science*, 100091. <https://doi:10.1016/j.pdisas.2020.100091>
- Fadli, R. (2021). Begini kronologi lengkap corona masuk Indonesia [This is the complete chronology of corona entering Indonesia]. (「インドネシアにおける新型コロナパンデミックの勃発から現在まで」) <https://www.halodoc.com/article/kronologi-complete-virus-corona-enter-Indonesia>
- Government Regulation 21 of 2020 about large-scale social restriction. (「2020 年政令第 21 号: 大規模社会制限」) <https://covid19.go.id/p/regulasi/pp-no-21-tahun-2020-tentang-psbb-dalam-rangka-penanganan-covid-19>
- Pujiastuti, S. I., Hartati, S. & Wang, J. (2022). Socioemotional competencies of Indonesian preschoolers: Comparisons between the pre-pandemic and pandemic periods and among DKI Jakarta, DI Yogyakarta and West Java provinces. (「インドネシアにおける未就学児の社会情緒的コンピテンス: ジャカルタ首都圏、ジョグジャカルタ特別州、西ジャワ州の比較分析」) *Early Education and Development*, 1-16. <https://doi.org/10.1080/10409289.2021.2024061>
- Putra, P., Liriwati, F., Tahrim, T., Syafrudin, .S., & Aslan, A. (2020). The students learning from home experience during Covid-19 school closures policy in Indonesia. (「コロナ禍の学校閉鎖政策により家庭学習を余儀なくされるインドネシアの学生たち」) *Jurnal Iqra': Kajian Ilmu Pendidikan*, 5(2), 30-42. <https://doi.org/10.25217/ji.v5i2.1019>
- UNICEF. (2021). *Indonesia Covid-19 response situation report*. (「新型コロナウイルス対策進捗報告書」) UNICEF.